

総合

リヴァックスからバイオガス発電プラント受注

720基、2023年1月運開目指す

シン・エナジー(神戸市)はこのほど、食品廃棄物をはじめとした様々な種類の産業廃棄物のリヴァックス(兵庫県西宮市)が、60基のガスエンジン式発電機を2機設置する。計画する。阪神間を中心とした近畿圏の有機性廃棄物1日当り約70tを原料に、年間およそ3400tのバイオガスを発電し、全量を「西宮バイオガス発電プラント」の設計・施工を担う。2022年7月より原料投入を開始し、2023年1月から予定の本プラントは、近郊の大規模バイオガス発電プラントは珍しいの提供が可能となる。



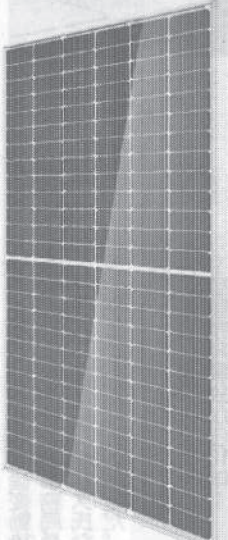
く、京阪神で最大規模の試みになる。現在、国内で食品廃棄物からバイオガスを生産しているのは、182mm角のウエハを採用した太陽電池モジュールの新製品を販売開始した。最高出力は、78セルで600W、72セルで550Wの高出力を実現した。太陽電池モジュールは、大型化、高出力化が世界的なトレンドとなっている。主流となるウエハのサイズとしては、182mm角と210mm角がある。同社は、日本の市場特性と出力やコストと施工や輸送などのバランスから、182mm角を選んだ。新製品は、ハーフセル採用で発電効率が向上し、日照の少ない環境でも高いパフォーマンスを発揮する低照度機能を搭載している。安定した発電量を見込める。1月に

リープトンエナジー 新パナソニック採用した

低照度機能搭載で 安定的な発電を実現

温水空調機器大手のノーリツ(神戸市)はこのほど、戸建用ハイブリッド給湯・暖房システム「エコアHYBRID」シリーズをモデルチェンジし、4月1日に発売すると発表した。エコアHYBRIDは空気熱を沸かすヒートポンプ給湯機と、瞬間式の潜熱回収型高効率ガス給湯器(エコジョー)の長所を融合した給湯・暖房システム。新モデルでは、太陽光発電の電気を積極的に活用してヒートポンプに貯湯する「消費優先モード」を改良。同社によれば業界最高レベルの省エネルギー性と同モードの使用により、従来給湯器(LPガス)と比較して年間給湯・保温光熱費を約78%削減(約9万7000円削減)できる(東京、戸建住宅、4人家族、太陽光発電4kwで試算)。余剰電気が可能になった「お風呂の見まもり」と「呼びかけ」が可能になった「お風呂の見まもり」機能や、風呂の使用状況に応じて追いつき配管を自動洗浄する「スマート配管クリーン」機能が搭載された。価格は給湯・ふろ・温水暖房タイプ(140L)が税別87万2600円、給湯・ふろタイプ(140L)が税別79万2600円、給湯・ふろタイプ(130L)が税別69万1800円。

182mm角パナソニック採用の新製品(78セル600W)



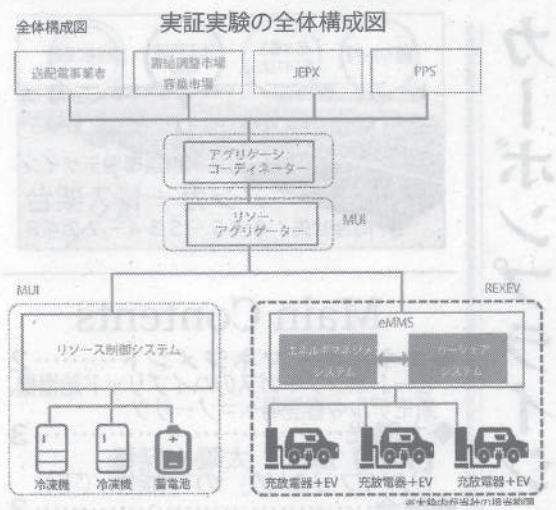
中国・常熟市の自社工場生産を開始した。

リープトンは、兵庫県神戸市に本社を置く。182mm角のウエハを採用した太陽電池モジュールの新製品を販売開始した。最高出力は、78セルで600W、72セルで550Wの高出力を実現した。太陽電池モジュールは、大型化、高出力化が世界的なトレンドとなっている。主流となるウエハのサイズとしては、182mm角と210mm角がある。同社は、日本の市場特性と出力やコストと施工や輸送などのバランスから、182mm角を選んだ。新製品は、ハーフセル採用で発電効率が向上し、日照の少ない環境でも高いパフォーマンスを発揮する低照度機能を搭載している。安定した発電量を見込める。1月に

福島県と神奈川県で運用するEV用いたVPPP実証実施

カーシェアとエネマネ組み合わせ 利便性向上図る

再生可能エネルギーなどの分散型エネルギーが普及する中、電力システムを安定化するための調整力として、電気自動車(EV)の活用が注目されている。EVを使ったカーシェアリング「eemo(イモ)」ならびにエネルギーマネジメントに取り組むREXEV(レクシヴ、東京都千代田区)は、EVのVPPPリソースとしての技術的な評価を目的とした実証実験を行っている。EVのバッテリーを電力の需給調整に活用する可能性を検証する。実証体制は、同社がアグリゲーターとして、神奈川県小田原市および福島県会津若松市で運用しているEV車両30台のリソース制御を担当。MU(エネファーム)関連技術実証研究支援事業の取組みを通じて開発された。このeMMSを用いたVPPP機能の構築と機能検証、EVをカーシェアターおよび全体を制御するリソースアグリゲーターの役割を担う。EV制御には、「eモビリティマネジメントシステム(eMMS)」が用いられる。期間は2月26日までを予定。



グリゲーターとして、神奈川県小田原市および福島県会津若松市で運用しているEV車両30台のリソース制御を担当。MU(エネファーム)関連技術実証研究支援事業の取組みを通じて開発された。このeMMSを用いたVPPP機能の構築と機能検証、EVをカーシェアターおよび全体を制御するリソースアグリゲーターの役割を担う。EV制御には、「eモビリティマネジメントシステム(eMMS)」が用いられる。期間は2月26日までを予定。

京セラ SOFCで7賞受賞

高効率・高環境性能が評価

京セラはこのほど、固体酸化燃料電池(SOFC)の研究開発技術と製品が、本年度に7賞を受賞したと発表した。SOFCに関する研究開発・事業が、「第9回技術経営・イノベーション大賞(主催)一般社団法人科学技術と経済の会 選考委員特別賞」を受賞したをはじめ、「エネファームミニ」と「エネファームtype S」の2製品が計6賞を受賞した。

燃料電池は、水素と酸素を化学反応させて電気を発生させるクリーンな発電装置で、同社はSOFCの研究開発を1985年から開始した。長年培ったスマートエナジー事業本部SOFC事業企画部・鬼丸長吾氏

また新たにスマートホームで宅外からも「遠隔見まもり」と「呼びかけ」が可能になった「お風呂の見まもり」機能や、風呂の使用状況に応じて追いつき配管を自動洗浄する「スマート配管クリーン」機能が搭載された。現在は、第3世代となるセルスタックの量産に取得組んでいる。「セルスタックの更なる改良・進化と共に、システム高性能化と小型化を図り、既存の集合住宅を含む全方位展開を進めたい」とスマートエナジー事業本部SOFC事業企画部・鬼丸長吾氏は抱負を述べた。

ヒートポンプ+ガスのハイブリッド給湯機、新モデル今春登場へ

より効率的な太陽光発電電気の自家消費が可能に

「消費優先モード」で年間約78%のランニングコストを削減(提供:ノーリツ)

従来型給湯器	エコジョー
年間ランニングコスト 約123,000円	年間ランニングコスト 約26,000円
削減率 約78%	

※わかずアプリ使用画面